

令和2年度千葉市図書館の評価

千葉市図書館のサービスの向上を図るため、「千葉市図書館ビジョン2040」における目標達成に向けた2つの基本目標と施策展開の柱に沿い、令和2年度の図書館評価を示します。
※評価対象：令和2年度、評価実施：令和3年度

基本目標1

特長のある「知の拠点」の実現

施策展開の柱

- 1 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進
- 2 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築(多様な主体による知の創出・活用)
- 3 未来を担う子どもたちの読書環境の充実

基本目標2

新たな時代に適応する運営の実現

施策展開の柱

- 1 誰もが利用しやすいサービス環境の実現
- 2 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築

評価表

評価（施策展開の柱ごとの評価）

- A: 計画通りに実施でき、一定の成果があった。
 B: 課題はあるものの、概ね計画通り実施できた。
 C: 不十分な点や課題が多く、計画通りに実施できなかった。

全体	施策展開の柱	内部評価		外部評価	
	5	A	3	A	3
		B	2	B	2
		C	0	C	0

基本目標1 ▶ 特長のある「知の拠点」の実現

施策展開の柱		内部評価	外部評価
1	未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進	B	B
2	「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築 (多様な主体による知の創出・活用)	A	A
3	未来を担うこどもたちの読書環境の充実	A	A

基本目標2 ▶ 新たな時代に適応する運営の実現

施策展開の柱		内部評価	外部評価
1	誰もが利用しやすいサービス環境の実現	A	A
2	新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築	B	B

【基本目標1】 特長のある「知の拠点」の実現

【施策1】 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進

(1)「知」のアーカイブ化計画の立案・実行

		取組結果
1	ア 市制100周年を迎えるに当たり、まちづくりに貢献した市民等の本市発展の記憶を、民間事業者のインタビュー手法などのノウハウを活用して収集・保存します。	・民間事業者のインタビュー手法などのノウハウを活用し、成果物を作成するために取材とレポートの作成等の業務を委託して実施した。インタビューについては、①加曽利貝塚の保存事業関係者、②大賀ハスの発掘に携わった方、③千葉銀座通りなどに携わった方などの3点に絞って、5人への取材を実施し、データとして保存した。(中央)

(2)本市の歴史的文書の整理・保存など

2	ア 本市の歴史的な資料の整理・保存について、検討します。	・市政100周年を記念して発行された刊行物等をはじめとした地域・行政資料や、地域情報の千葉市関連資料を収集及び保存した。 ・過去のレファレンス事例等から歴史的資料の所蔵場所をファイル化し管理するなど所蔵資料の整理を行った。(稲毛) ・緑区関連資料コーナーを、引き続き設置し、緑区で拠点とする団体などが発行するパンフレット等を収集・保存した。(緑) ・地域資料の企画展示を実施した。(例)「千葉の縄文時代～加曽利貝塚～」、「千葉市の郷土かるた～昔ながらの遊び～」(中央)、地元の歴史研究家の執筆による「土気の歴史散歩」、「むかしと今の土気」(あすみが丘)など
---	------------------------------	---

評価指標	達成目標	令和2年度 実績	令和元年度	平成30年度
地域行政資料の収集冊数 (公民館図書室での収集冊数を含む。)	現状維持	3,795 冊	3,509 冊	3,622 冊

(3)「知」の提供プラットフォーム(基盤)の構築 (「知」の見える化)

3	ア 地域情報をインターネット上で閲覧できるシステムを構築します。	・デジタルアーカイブシステムADEACを利用し、令和3年3月より、千葉市史(第1巻)を公開した。(中央)
---	----------------------------------	--

(4)デジタル・アーキビスト 等の専門人材の養成

4	ア 中長期的な視点に立脚した人材育成方針を定め、デジタルの知識や技能を有するデジタル・アーキビスト等の専門人材の養成について検討します。	・デジタルの知識や技能を有するデジタル・アーキビスト等の専門人材の養成について、必要な資格取得の支援などを行うことを引き続き検討する。(中央)
---	--	---

(5)「知」の発掘などに関する市民協働体制の構築		取組結果
5	ア 市民と協働した「知」の収集体制について検討します。 (ア)ボランティア組織の編成、活用などの検討	・令和2年度に実施した民間事業者を活用した「知」の収集・保存事業のノウハウを参考とし、今後、収集方針やボランティアの活動を支援する仕組みなどの検討をしていく。(中央)

(6)学習成果などの「市民の知」の発表に対する支援

6	ア 地域の歴史などについて、自主的・主体的に研究などを行っている団体への支援内容に関する調査について検討します。	・地域の歴史等に関して、自主的・主体的に研究などを行っている団体について、まずは、その活動内容等を把握するための方法を今後検討していく。(例)市内の生涯学習施設等を拠点に活動している団体の情報収集を行い、当該団体にヒアリングを行うなど(中央)
---	--	---

(7)その他の取組み

7	ア 資料費を有効に活用し、図書館全体としての計画的な収集、適正な管理、迅速な提供及び基本的な資料提供サービスの充実に努めます。	・毎週実施している中央館・地区館職員による合同選定会議や、館内選定会で資料の選定を行い、リクエスト資料など利用者の要望を迅速に反映させ、購入や相互貸借などにより、速やかに用意するように努めた。 ・利用頻度の低くなった資料の除籍及び所管替えを行った。 ・「千葉市図書館資料収集方針」に基づき、各分野の新刊本などを購入し、利用者に提供した。 ・日々のカウンター業務の中で寄贈して下さる利用者との人間関係を培い、継続的な寄贈につなげた。 ・来館者に新刊本をお知らせするため、新刊新着本のリストを作成し、新刊本コーナーで提供した。 ・企画展示に併せて関連する資料の購入を行い、展示・紹介することによって利用促進を図った。 ・中央館・地区館・分館間で資料の一時移管を行い、有効活用した。 ・資料費を計画的に執行するため、不用額が出ないよう各週単位で管理した。 参考資料 統計「千葉市の図書館2021」 (P.24)視聴覚資料数の推移 (P.25～30)年間受入・除籍統計
---	---	---

評価指標	達成目標	令和2年度 実績	令和元年度	平成30年度
新規登録者数 (公民館図書室での登録者を含む。)	対前年度比増	13,452 人	18,977 人	21,018 人
来館者数 (館内での閲覧利用も含め、図書館に来館した利用者の延べ人数)	対前年度比増	162.7 万人	250.5 万人	257.7 万人
年間貸出利用者率 (1 年間に図書館を利用した市民の割合)	対前年度比増	市民の 9.0%	市民の 11.4%	市民の 12.1%

評価指標	達成目標	令和 2 年度 実績	令和元年度	平成 30 年度
年間受入図書資料数	現状維持	37,533 冊 (うち購入 24,178 冊 寄贈 13,203 冊 その他 152 冊)	43,218 冊 (うち購入 26,938 冊 寄贈 16,106 冊 その他 174 冊)	44,810 冊 (うち購入 28,654 冊 寄贈 16,023 冊 その他 133 冊)
市民一人当たり貸出数及び総貸出数 (公民館図書室での貸出を含む。)	対前年度比増	一人当たり 3.51 冊 総貸出数 345 万冊	一人当たり 4.41 冊 総貸出数 432 万冊	一人当たり 4.58 冊 総貸出数 448 万冊
WEB 予約件数	対前年度比増	93.2 万件	102.0 万件	97.0 万件

内部評価

- (1)
・本市に関係する地域・行政資料や、まちづくりに貢献した市民等の本市発展の記憶を、民間事業者のインタビュー手法などのノウハウを活用して、収集・保存・整理に積極的に取り組み、本市の歴史的な資料の充実を図った。
- (3)
・「千葉市史(第1巻)」をアーカイブ化し、インターネットを通じて提供できるように環境を整備したことや、地域資料を効果的に活用し、地域資料のコーナーの設置や展示を行い、市民へ「知」を提供することができた。
・地域資料のアーカイブ化については、資料の劣化などにより後世への継承が困難となる事象を防ぐため、「千葉市史」を検証した上で継続的に取り組んでいく。
- (4)、(6)
・地域資料のアーカイブ化を継続的に取り組むため職員に対して必要な資格取得などの支援や、地域の歴史について研究を行っている団体の活動内容等について調査・検討を行い、更なる「知」の収集・保存を図る。
- (7)
・限られた資料費予算の中で、計画的・効率的に収集等を行い、利用者への迅速な提供に努めた。資料の充実を図るため、引き続き予算の確保に努める。
・新型コロナウイルス感染症の影響により、来館者数・年間貸出利用者数などは減少傾向にあるが、誰もが利用しやすいサービス環境について検討する必要がある。

評価: **B**

外部評価

- (1)
・インタビューによる本市発展の記憶の収集事業(本市のまちづくりに貢献した市民等の記録)は意義深いものであり、今後の成果物の公表と活用を期待する。
・「知」のアーカイブ化計画により、市制100周年を迎える市の歴史的資料の整理・保存を進めていただいていることを評価する。
- (2)
・市政100周年を期に市民の千葉市に関する興味関心も高まり、様々な地域行事や活動が行われると思われる。行政や市民が企画した活動やパンフレットなど地域情報や資料の収集保存に期待したい。
- (3)
・「千葉市史(第1巻)」のアーカイブ化は全文検索機能が付与されている点も重要であり、市民が手軽に参照できる市史となるよう以降の巻の電子公開が待たれる。千葉市関連資料については必ずしも全文検索を要しないので、費用対効果や近い将来に期待される国立国会図書館による電子化の進展も見据えながら積極的に電子公開を進めてほしい。
・デジタルアーカイブシステムADEACを利用し、千葉市史(第1巻)を公開したことは評価できる。今後地域情報をデジタル化して閲覧できるようになることを期待する。現在のホームページからアーカイブシステムが探しにくいなど、課題が残るので、ホームページの改善を望む。
- (4)
・デジタル・アーキビスト等の専門職員の資格取得支援をはじめ、人材育成は重要であり、中長期の人材育成方針をしっかりと策定していただきたい。
- (5)
・「ボランティア組織の編成、活用」「ボランティア活動を支援する仕組み」とあり、ボランティアを図書館内に作るのか、位置づけなどが不明である。
- (6)
・まずは、団体の情報収集し、どのような支援を必要としているのか、図書館としてどのような支援ができるのか検討してほしい。
- (5)、(6)
・「市民の知」の発掘や発表に対する支援を進めていただいていることを評価する。高齢化により、地域の歴史に関する「知」が継承困難とならないよう、また、それらの支援が、市民の生涯学習の場となり、生きがいつくりの場となるようさらに取り組みを進めていただきたい。
- (7)
・令和2年度の利用統計はコロナ禍で休館やサービス縮小を余儀なくされた中での評価が難しいが、来館者数(前年度の約65%)・市民一人当たり貸出数(同約80%)は健闘と言える可能性もあり、全国的な公共図書館利用統計の集計を待ちたい。年間貸出利用率がマイナス2.4ポイント、WEB予約件数が前年度の約91%にとどまった点は図書館の役割への期待も読み取れる。その一方で購入図書は年々減少しており、資料費を確保し有効利用することに努めてほしい。
・限られた資料費予算の中で、計画的・効率的に収集等を行い、利用者への迅速な提供に努めたことは評価する。今年度は新型コロナウイルスの影響で休館期間があり、利用者数などが減少したのは仕方ないが、WEB予約などを活用し、利用者に資料提供するような努力と、資料費の確保に努めていただきたい。
・所蔵資料統計(P16)によると、公民館図書室が25000冊、図書館が29000冊と除籍が多い。(土気図書室のリニューアルに伴い13000冊減) 私たち利用者も新刊に目が行きがちだが、興味を引くような展示や企画によって利用してもらう工夫も大切である。
- (その他)
・本項目は、『千葉市図書館ビジョン2040』基本目標の冒頭に掲げる事柄であり、従来の図書館像を変えるものとして、今後取組をより具体的に進めることが期待される。

評価: **B**

【基本目標1】 特長のある「知の拠点」の実現

【施策2】 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築(多様な主体による知の創出・活用)

(1) SNSを活用した知識の交流を促す仕組みの構築		取組結果
8	ア SNSを活用した知的な交流の場の設定について検討します。	・Facebookページを使用し利用案内やイベント情報を発信しており、中央図書館に加え、10月から地区館・分館も活用できるよう運用の見直しを行った。

(2) 学びや調査研究を支援する知的な交流の場の提供

9	ア 公衆無線LAN(Wi-Fi)環境が整った、市民が集まって学べるスペースや市民間で議論ができるミーティングルームなどの整備を検討します。	・令和2年度に全ての図書館(15施設)へWi-Fi環境を整備した。Wi-Fi環境を活用したミーティングルーム等の整備については施設の改修等にあわせて取り組んでいく。(中央)
---	---	--

(3) 市民と知識、知識と知識をつなぐ活動の推進

10	ア 市民の課題解決を支援するため、レファレンスサービスの充実を図ります。	・レファレンスサービスの案内について館内に掲示した。 ・利用者が困っていたり、本を探している様子を見かけたりしたら声掛けを行った。 ・窓口のほか電話によるレファレンスにも迅速に対応し、市民の課題解決の効率化を図った。 ・レファレンス資料(参考資料)書架の一角に調べ方の道案内(レファレンス)コーナーを設置し、調査に役立つ基礎資料の一部や調べ方を紹介した。(中央) ・参考資料を購入し、参考資料コーナーや書架の充実に努めた。 ・各関係機関の実施する研修に職員が参加した。 ・図書館ホームページからのメールレファレンス(38件)に対して、資料提供等によるサービスを実施した。(中央) ・レファレンスのPRのため、図書館ホームページの「調べ物相談(レファレンス・サービス)」のページに地域に関するレファレンス事例を掲載した。(累計30件 ※令和2年度に2件追加)(中央) 参考資料 統計「千葉市の図書館2021」 (P.49)レファレンス件数の推移
----	--------------------------------------	--

評価指標	達成目標	令和2年度 実績	令和元年度	平成30年度
レファレンス受付件数	対前年度比増	67,292 件	90,113 件	92,124 件

		取組結果
11	イ 出会いのある図書館利用の促進のため、講座や企画展示などによる情報発信をします。	・図書館市民講座・郷土史講座・子ども読書講座・紙芝居講座など様々な講座を開催した。また、講座に関連するテーマの企画展示を行い、関連資料の貸出を行った。(例)市民講座「千葉氏と中世文化」(みやこ)、「千葉の例大祭」(花見川)、子ども読書講座「恐竜博士が語る！楽しい科学絵本の世界」(中央)、紙芝居講座「おうちで紙芝居」(中央)など ・「こども六法」著者による講演会を実施した。また、講演会における啓発効果が永続することを企図して本の販売会を実施した。(中央) ・地域資料の展示、通年の文学賞受賞作品の展示、時季に合わせたテーマの展示、公募による展示など様々な企画展示を行った。(例)時季「夏といえば！山派ですか？海派ですか？」(美浜)、公募「みんなで作ろう！企画展示」(美浜) ・企画展示に合わせた資料紹介、展示資料のブックリスト作成を行った。 ・ビジネス展示コーナーにおいて、経営・就職関連資料等、ビジネスで活用できるような資料の展示を行った。(中央) (例)テーマ:「危機管理」(リスクマネジメントやウィズコロナ・アフターコロナ時代におけるビジネス支援資料など) ・企画展示コーナーのほか、タイムリーな話題に対応するミニ展示コーナーを設置し、様々な情報発信を行った。(花見川) ・メダカの飼育に関する資料と合わせ、本物のメダカも飼育・展示することで、図書館資料や生物への関心を促した。(緑) 参考資料 統計「千葉市の図書館2021」 (P.58～62)企画展示 (P.63～69)主催行事(定例おはなし会を除く)

評価指標	達成目標	令和2年度 実績	令和元年度	平成30年度
一般向き図書館講座の開催回数及び参加者数	対前年度比増	13回 192人	25回 843人	23回 1,136人

(4)生涯学習センター・公民館等との連携・協力の強化

12	ア 市内の生涯学習施設、教育機関、公的機関、類縁機関等と連携し、資料の収集や提供を行うとともに、各種事業の実施に際して相互に事業協力を行います。	・生涯学習センターと協力して事業を実施した。(中央)「わらべうたと絵本の会」、「子ども読書講座」、「外国語おはなし会」、「子ども読書まつり」、小学校の図書館見学を実施、「子ども読書まつり」での小中学校の展示) ・市内の教育機関・学習施設と連携し、イベントを開催した。(みやこ、稲毛) ・市民講座の開催にあたり、郷土博物館の職員を講師として迎えた。(花見川) ・市民講座の開催にあたり、加曽利貝塚博物館及び千葉市埋蔵文化財調査センターの協力のもとに、加曽利貝塚博物館から講師を派遣してもらい、講演いただいた。(緑) ・「子ども読書まつり」、「冬の親子おはなし会」を鎌取コミュニティセンターとの共催で実施した。(緑) ・(財)千葉県教育振興財団から資料を取得し、利用者に提供した。(あすみが丘) ・大学と連携・協力し、学生ボランティアによる「英語で楽しむ親子おはなし会」を実施した。(美浜、打瀬) ・夏休みに科学館と協力して、小学生対象に「おもしろ科学あそびと絵本の会」を実施した。(美浜) ・例年、実施している教員の社会体験研修の受け入れや、教職員向けの研修会の講師を務め、図書館利用について説明をしているが、新型コロナウイルス感染症の影響により未実施。(中央)
----	--	---

		取組結果
13	イ 公民館図書室のサービス向上のため、選書、レファレンス、研修等の支援を行います。	・公民館図書室の選書の一助となるよう、使用済みの新刊全点案内を毎月送付した。 ・公民館図書室からの要望(図書のリクエスト)や問い合わせには迅速に対応した。 ・「図書館・生涯学習振興課・公民館管理室・公民館図書室の連絡体制等について」に基づき相互に協力した。 ・公民館図書室の訪問調査(全21館)に、図書館職員を派遣して、図書室運営の支援を行った。 ・選書や除籍等、資料収集に係る知識の向上を図るため、公民館図書室運営研修会に講師を派遣した。 ・例年、公民館図書室職員に、初任者向け研修会への参加を促しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により研修会が中止となったため、研修会の資料を配布した。(中央) ・例年、公民館図書室職員の図書修理及び接遇能力向上を図るため、全体研修会への参加を促しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により研修会が中止となった。(中央)

(5)その他の取組み

14	ア 図書館の利用を促進するため、地域での広報活動や、各種メディアを活用した広報活動を積極的に実施します。 ＊「図書館だより」の発行 ＊「市政だより」へのおはなし会等イベント情報の掲載	・「市政だより」へおはなし会等イベント情報を掲載した。(中央) ・生涯学習センター広報紙「まなびの森」へイベント情報を掲載した。(中央) ・「図書館だより(年2回発行)」へレファレンス事例に関する記事を毎号掲載した。また、より多くの方に手に取ってもらえるよう、文字サイズを大きくし見やすくレイアウト変更を行った。(中央) ・ホームページ、Facebookページなどによるインターネットを通じた広報を実施した。(中央)
----	---	---

内部評価

- (1)
 ・Facebookページへ利用案内やイベント情報の発信を、中央図書館に加え、地区館・分館も活用できるよう運用の見直しを行い、SNSを介した情報提供サービスに積極的に取り組んだ。
- (3)ア
 ・レファレンス件数は口頭・電話・文書すべての件数が減少しており、特に口頭によるレファレンス件数が大幅に減少している。これは、新型コロナウイルス感染拡大防止による休館中の間、対面でのレファレンスの受付を一時的に中止したことなどによる影響が考えられる。(口頭によるレファレンス件数:前年比22,906件減)
 ・多様化するレファレンスに対応するため、各関係機関の実施する研修に参加し、担当職員のスキルアップを図った。また、レファレンス資料(参考資料)の充実や、窓口のほか電話やメールでのレファレンスにも対応し、レファレンスサービスの充実に努めた。未利用者に対しても館内提示や声掛け、「図書館だより(年2回発行)」にレファレンス事例に関する記事を掲載するなどにより、レファレンスサービスの周知を図った。引き続き、レファレンスのさらなる充実及び周知に努める。
- (3)イ
 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた講座が中止になり、開催回数及び参加者数が減少している。講座の実施にあたっては、講座に関連するテーマの企画展示を実施し、関連資料の貸出をするなどの情報提供を行い、図書館の利用促進につなげる工夫を行った。
 ・ビジネス展示コーナーにおいて、ウィズコロナ・アフターコロナ時代におけるビジネス支援資料の展示や、「おうちで紙芝居」講座を開催するなど、タイムリーな話題に対応した。
 ・読書活動の普及啓発のため、引き続き、新型コロナウイルス感染症の対策を講じて様々な講座や企画展示を実施していく。
- (4)ア、イ
 ・講座や企画展示、おはなし会など関係機関と連携した多くの取組みを実施した。引き続き、公民館図書室をはじめ各関係機関と連携して取り組んでいく。

評価: **A**

外部評価

(1)

・Facebookのフォロワーが1108人。地区図書館・分館の地域情報発信の頻度を増やし、情報発信ツールとなることを期待する。
・ホームページについては、アクセス数は増加しており、情報発信や交流の場など有効な活用を望む。

(2)

・Wi-Fi環境の全館への設置は高く評価できる。広報を強化し周知・活用に努めてほしい。

(3)ア

・レファレンスは千葉市を知る上で重要な事例がホームページにまとめられているが、これらの「地域に関するレファレンス事例」をパンフレットやチラシにして配布することで、レファレンスの役割や便利さを利用者に伝え、レファレンス質問をよりしやすくすることができるかもしれない。

・レファレンスサービスの充実に努めている点を評価する。感染症拡大の影響で受付件数が減少しているが今後、さらに充実が期待されるサービスとなってくるとされる。

・これまでレファレンスサービスや図書館資料のWeb検索講座やOPACの利用方法について知らない利用者へ、その活用について周知してもらうような広報、利用の促進を図ることが必要。検索講座など少人数で定期的に行うなど、工夫が必要。

・職員は利用者の「知りたい」要求を的確に把握し、資料へと結びつけるよう、研修に積極的に参加しレファレンス技術の向上に努めていただきたい。

(3)イ

・コロナ禍においても一般向き図書館講座は一定数の開催がされ、市内博物館等の講師派遣も継続している。しかし、これらの講座内容の紹介や報告が十分とは言えない。基本目標1の「知の拠点」の形成の上でも、これらの講座を記録に残し、市民共有の財産として活用していく努力が必要と思われる。図書の企画展示は分館を含め活発に行われていて、利用者にとって知らない図書を発見する機会として重要な役割を果たしている。利用者の来館を促す誘因として、今後も充実をお願いしたい。

・コロナ禍で講座が中止になったり、開催回数や参加者の減少があり残念だったが、子ども読書講座「恐竜博士が語る！楽しい科学絵本の世界」(中央)や「こども六法」著者による講演会など、子ども達が楽しみにしていた講演会が実施できたことはとても良かった。講演会「こども六法」では、本の販売会を実施したが、生涯学習センターとの複合施設としてのデメリットを改善し、講演会後の関連資料の紹介やその場で貸出すことで図書館利用の促進につなげてほしい。

・地区図書館も工夫を凝らした企画展示や、タイムリーな話題の展示などが市民の楽しみになっており、読書への興味関心が広がっている。

(4)ア

・生涯学習センターなど各種機関と連携して、多彩な取り組みが行われていることを評価する。学生ボランティアやNPOなどとの協力することで、図書館利用のすそ野が広がることを期待したい。

・新型コロナウイルスのため、学校との連携が難しくなったと感じる。学校図書館や図書館の利用促進には教員が図書館の有用性や利便性を知ること。そのための研修や、団体貸し出しのPRなど実施してもらいたい。

(4)イ

・公民館図書室・公民館管理室との連携により、公民館図書室の訪問調査や公民館図書室運営研修会への講師派遣など図書室支援の取り組みを評価する。公民館図書室は地域の利用者にとって本と繋がる身近で、貴重な施設となっているので、千葉市の図書館として長期的な視点を持ち運営していくためにも、市の直営での運営を求めます。

(5)

・Facebookで写真を活用したスピーディーな広報が試みられている点は評価できる。一方、ホームページでは、お知らせとして載せたものが古くなると重要な情報でもトップページから見えなくなってしまう、改善が望まれる(例:図書館以外の返却ポスト)。

・「図書館だより」のレイアウトが変更されとても見やすくなった。ホームページ上ではカラーで見ることができるが、ホームページの最下部にあり探しにくく残念である。SNSでの広報も必要だが、カウンターで利用者に声をかけて、紙での広報も大事にしてほしい。

・図書館職員のおすすめ本など、職員からの発信があると、本も図書館も身近に感じられ嬉しいと思う。

(3)イ、(5)

・企画展示やイベントの工夫、Facebookなど広報の工夫により、足を運びたくなる図書館づくりが進められていることを評価する。

評価: **A**

【基本目標1】 特長のある「知の拠点」の実現

【施策3】 未来を担うこどもたちの読書環境の充実

(1) 計画的なこどもの読書活動の推進

		取組結果
15	ア こどもたちがあらゆる機会にあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、令和2年度に「千葉市子ども読書活動推進計画(第4次)」を策定します。	・第3次計画の成果と課題を踏まえ、関係部局と連携し、新たに第4次計画を策定した。計画策定にあたっては、図書館協議会において協議をし、広く意見を聞くためパブリックコメントを実施した。

(2) こどもたちが利用しやすい読書環境の整備・充実

16	ア こどもの本を知り、本を手渡す術を知るために、必要な研修を実施するとともに、講師として講座事業が実施できるよう、人材の育成を図ります。	・職員及び会計年度任用職員を対象に読み聞かせやブックトークの内部研修を実施した。(1回)(中央) ・職員及び会計年度任用職員のスキルアップのため外部研修に参加した。(「千葉県立図書館主催児童サービス基礎研修会」、「千葉県公共図書館協会主催スキルアップ研修会」、「公共図書館等中堅職員研修会」) ・各種研修に職員を積極的に参加させ、研修に参加した職員が報告をすることで、職員間で知識を共有した。
----	--	--

(3) こどもの本の充実

17	ア すべてのこども(乳幼児から青少年)の読書活動を支える資料の充実を図り、読書環境の整備に努めます。	・様々な年齢のこども向け新規図書の購入、古くなった図書の除籍を行い、読書環境の整備に努めた。 ・情報収集を積極的に行い、あらゆるジャンルの書籍の収集に努めた。 ・児童担当をメインとした館内選書会議を行い、こどもの本の収集の充実を図った。 ・子ども向け新規図書の展示や、「よんでみよう」を各年齢に合わせ配架し、おすすめの本を紹介するなど本の紹介に努めた。 ・小学校低学年・中学年・高学年・中学生向けのブックリスト「よんでみよう」の内容を見直し、近年評価の定着した本を追加するなど、改訂を行った。 参考資料 統計「千葉市の図書館2021」 (P.72)刊行物(おすすめの本のリスト)
----	--	--

評価指標	達成目標	令和2年度 実績	令和元年度	平成30年度
児童書貸出冊数	対前年度比増	95.8万冊	118.9万冊	122.2万冊

(4)子どもや保護者を対象とした取組みの充実		取組結果
18	ア 本の楽しさを知り、話し手と聞き手のコミュニケーションが図れるおはなし会やわらべうたの会を、定期的を実施するほか、家族や親子で楽しめる会も開催し、家庭での読書活動につなげます。	・年齢別・対象別のおはなし会に加え、時季に応じたおはなし会も開催した。 ・子どもが学校休業中に本や図書館に親しむためのイベントを実施した。（「わくわく体験教室」、「子ども一日図書館員」など） ・「定例おはなし会」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、おはなしの部屋が使用できず、開催することができなかった。その他の行事（イベント開催としてのおはなし会など）に関しても、例年ほど実施することは困難であったが、アトリウム等を使用して出来る限り実施した。（中央） ・定例おはなし会に合わせ、みやこ図書館集会室を「親子読書ルーム」として開放し、利用拡大を図った。（みやこ） ・定例のおはなし会は平日だが、イベント開催としてのおはなし会は土曜日の開催とし、平日に参加出来ない方の参加をしやすいとした。（花見川） ・ボランティアの協力を得て紙芝居の実演を実施した。（稲毛） 参考資料 統計「千葉市の図書館2021」 (P.63)おはなし会(定例) (P.63～69)主催行事(定例おはなし会を除く)

評価指標	達成目標	令和2年度 実績	令和元年度	平成30年度
おはなし会等の開催回数及び参加者数	対前年度比増	241 回 1,805 人	772 回 9,585 人	927 回 19,617 人

19	イ 子どもたちが、図書館を十分活用し、必要な情報を収集できるよう、図書館の見学会や資料の検索講座などを行うほか、保護者などに対し、子どもの読書の意義及び目的を啓発します。	・図書館見学・まち探検・1日図書館員等で来館した子ども達に、OPACの操作方法等を教え、自分で検索できる楽しさを学習してもらった。また、保護者からの子どもの読書に関する相談にも対応した。 ・子どもの読書の意義及び目的を啓発、図書館利用を促進するため、親子参加事業を実施した。（「子ども読書まつり」、「わらべうたと絵本の会」、「子ども読書の日記念親子おはなし会」、「夏・冬の親子おはなし会」、「青少年の日親子おはなし会」など）
20	ウ 親子の読書活動を推進するため、読んだ本の記録や感想を書き込める「どくしょてちょう」を未就学児(5歳)、小学校1年生から6年生に配布します。	・より多くの児童生徒に利用してもらえるよう、「どくしょてちょう」を年長児、小学生全学年に配布した。 R2年4月に年長児(約7,900人)に配布。 R2年4月に小学1～3年生用(約30,000人)、4～6年生用(約31,200人)を配布。

(5)移動図書館車の活用

21	ア 移動図書館車が学校に訪問することで、子どもたちが学校にいながら本市図書館の図書資料に触れる機会の提供について検討します。	・移動図書館車で小学校1校及び児童相談所を訪問し、図書資料に触れる機会を提供した。（中央）
----	--	---

(6)学校・学校図書館との連携・協力の推進		取組結果
22	ア こどもの読書活動を継続的に推進するために、学校と連携し、児童・生徒の図書館見学や職場体験を積極的に受け入れるとともに、図書館から職員が学校に出向いての利用案内やおはなし会等、学校への団体貸出を行います。	・近隣小学校や中学校と連携し、図書館見学(※新型コロナウイルス感染拡大の影響でほとんどの学校が辞退)や職場体験の受け入れ、おはなし会やまち探検を実施した。 ・団体貸出は緊急事態宣言による休館中も継続して行った。また、休校期間中に、学校へ来ている児童に活用してもらうため、市内の全小学校・特別支援学校へ団体用図書1校につき30冊を移動図書館と協力し、直接届けて貸出した。(中央) 参考資料 統計「千葉市の図書館2021」 (P.53)団体貸出利用統計 (P.70～71)学校等関連施設との連携活動

評価指標	達成目標	令和2年度 実績	令和元年度	平成30年度
学校等関連施設と連携事業を行った回数 (図書館見学、おはなし会、調べ学習、職場体験、学校での利用案内等の連携事業を行った回数)	対前年度比増	151 回	449 回	469 回
団体貸出による児童図書の提供数	対前年度比増	24,183 冊	20,909 冊	23,367 冊

(7)「千葉市民の知」の学校教育での活用

23	ア 収集した「千葉市民の知」を授業で活用する際の支援について検討します。	・令和2年度に民間事業者を活用し収集した「千葉市民の知」のデータについて、授業で活用する際の支援について、今後検討していく。(中央)
----	--------------------------------------	--

(8)その他の取組み

24	ア 地域おはなしボランティアの育成を図り、協働して、学校、地域、施設などでの活動を進めます。	・地域おはなしボランティアスキルアップ講座を実施し、紙芝居やアニメーションに関する知識・技術の向上を図った。(2回)(中央) ・市内小・中学校・特別支援学校の他、新たに市内保育施設へも、地域おはなしボランティアの派遣について案内を行い周知した。 ・地域からおはなし会の要請があった際、地域おはなしボランティアに協力依頼をし、一緒に活動を行った。 ・子ども読書まつりの際に、地域おはなしボランティアによるおはなし会を実施した。 ※おはなしボランティアの活動派遣は地区館が行っている。 参考資料 統計「千葉市の図書館2021」 (P.71)地域おはなしボランティア活動
----	--	--

評価指標	達成目標	令和2年度 実績	令和元年度	平成30年度
地域おはなしボランティア活動実施回数及び派遣人数	対前年度比増	5 回 20 人	89 回 271 人	108 回 294 人

		取組結果
25	イ 読書習慣を形成する上で、大きな役割を担う家庭での読書活動をすすめるための「ファミリーブックタイム」運動を推進します。また、地域で読書活動を進める地域・家庭文庫などを支援します。	・ファミリーブックタイム事例集を館内配布し、そのブックリストに掲示している資料の展示を行った。 ・各年齢に合わせた「よんでみよう」を積極的に配布した。 ・4か月児向けのファミリーブックタイム事例集を各区保健福祉センターに配布(9,000部)し、小学校の新入学児童向けの事例集を市内全小学校に配布(9,265部)した。(中央) ・4か月児検診の際に、図書館のお薦めする本の紹介として、おはなし会の一覧やお薦めの絵本を掲載している「我が家のファミリーブックタイム」を配布し、図書館利用へつなげている。(中央) ・幼保支援課が作成したイクメンハンドブック(育男手帳)に、妊娠期向け事例集を掲載した。(中央) ・地域・家庭文庫からのリクエストを参考に団体貸出用図書を購入した。(中央) ・中央図書館の児童フロアに文庫の紹介コーナーを作った。(中央)
26	ウ 子育て支援施設、生涯学習施設その他で行われるこどもの読書活動推進に関わる事業について、連携・協力します。	・地域の保育所のこどもたちを対象に、おはなし会を実施した。 ・地域の保育所からの見学を受け入れ、おはなし会を実施した。 ・子育て支援施設に対し、出張おはなし会等のPRに務めた。

評価指標	達成目標	令和2年度 実績	令和元年度	平成30年度
連携事業等実施数 (学校以外の機関(保育所・幼稚園等)との連携により実施した、市民を対象とした事業の数)	対前年度比増	9 件	236 件	203 件

27	エ 図書館業務の体験学習の機会を設けます。また、司書課程の学生の受け入れ、インターンシップ実習、ボランティア体験の受け入れを行います。	・夏休み期間中に小学3年生を対象とした「子ども一日図書館員」を実施した。 ・要望のあった大学1校から、インターンシップ実習の受入を行った。(2名)(美浜)
28	オ 図書館が地域の交流の場となるように、こども読書まつりにおける各種イベントなど、市民の企画・参加による事業を実施します。	・利用者に好きな本を書いて貼ってもらう参加型の展示「本だいすき」を行った。 ・子ども読書まつりにおいて、「本だいすき」や工作、ボランティア団体による紙芝居の実演を行うなど、市民の企画・参加によるイベントを実施した。 ・千葉市文庫連絡協議会による展示を行った。(中央)

内部評価

- (1)
・こどもの読書活動を推進するため、具体的な取組内容を示した「千葉市子ども読書活動推進計画(第4次)」を策定した。
- (2)
・内部・外部の研修や地域おはなしボランティアスキルアップ講座を実施し、児童サービス担当者のスキルアップを図った。
- (3)
・こどもの発達段階に応じた読書活動が行われるよう、発達段階ごとの望ましい選書を行った。引き続き、こどもの本の充実を図る。
・児童用図書の貸出冊数については、児童生徒数の減少に加え、新型コロナウイルス感染拡大防止による休館等の影響を受けて、大幅に減少している。
- (4)ア、(6)、(8)ア
・おはなし会、学校等関連施設との連携事業(図書館見学など)、おはなしボランティアの活動派遣は、新型コロナウイルス感染症の影響により、例年ほど実施することは困難であったが、感染症対策を行い、可能な限り実施した。
- (6)
・学校・学校図書館と連携し、図書館休館中も団体貸出は継続して行い、図書資料を学校でこどもたちに提供した。また、休校期間中に、学校へ来ている児童に活用してもらうため、市内の全小学校・特別支援学校へ団体用図書1校につき30冊を移動図書館と協力し、直接届けて貸出した。
- (4)ウ
・「どくしょてちょう」を配布し、こどもが読書に親しむきっかけを作るとともに、親子のふれあいや家庭での読書の習慣付けを図った。
- (8)イ
・「ファミリーブックタイム事例集」や、「よんでみよう」の配布や、「イクメンハンドブック(育男手帳)」に妊娠期向け事例集を掲載するなど、刊行物を積極的に活用して読書活動の推進・啓発を図った。
・中央図書館の児童フロアに文庫の紹介コーナーを作ったことや、地域・家庭文庫からのリクエストを参考に団体貸出用図書を購入し、団体貸出用図書の充実に努めるなど、地域で読書活動を進める地域・家庭文庫を支援した。

評価: **A**

外部評価

- (1)
・「千葉市子ども読書活動推進計画(第4次)」は第3次計画の成果と課題を踏まえた延長線上に位置付けられるが、引き続き、家庭・地域・学校等と連携した取り組みを進めてほしい。特に、学校等との連携はコロナ禍のため図書館見学等の機会が失われてしまっているが、その再開を図るだけでなく、司書教諭、学校司書(学校図書館指導員)の研修機会等を通して千葉市図書館との人的ネットワークを強めてほしい。
・子どもの読書活動を推進するため「千葉市子ども読書活動推進計画(第4次)」の策定を評価する。パブリックコメントの実施は評価するが意見の反映はほとんどされなかった。
- (2)
・読み聞かせやブックトーク等の研修など職員のスキルアップに努めていることを評価する。
・児童サービスに精通した職員の存在は不可欠であり、まずはすべての図書館に経験豊かな児童担当職員を配置すること。多くの職員及び会計年度任用職員が研修に参加しスキルアップできるような体制を整えることが急務である。地区図書館から地域おはなしボランティアが派遣される際は、職員も同行して、現場を確認し、学校図書館指導員など学校の担当者と連携の機会としてほしい。
- (3)
・新型コロナ感染拡大防止により、来館し子ども達が自由に本を手取る機会が少なくなったことは残念である。ブックリスト「読んでみよう」の改訂を行い、カラーの書誌情報が載ってきれいなリストになったので、ぜひ活用してほしい。
- (4)ア
・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、様々な対策をして、可能な限りおはなし会などの子どもに本の楽しさを伝える取り組みを行ったことは評価する。

(4)イ

・図書館見学や1日図書館員、OPACの操作方法を教えるなど、おはなし会などとは違った図書館の魅力を伝え、利用促進にもつながる取り組みとして評価したい。

(4)ウ

・読書手帳は、「かそりーぬ」のデザインも親しみやすく、子ども自身が本の面白さを記録できる点も特長で、家庭における読書の取組を豊かにする小道具として大いに役立つと思われる。

・「どくしょてちょう」は子どもにとって楽しみながら読書のきっかけとなる。配布するだけでなく利用促進と工夫が望まれる。

(5)

・児童相談所への移動図書館車での訪問を評価する。入所児童が増えているので、続けてほしい。

・小学校1校と児童相談所を移動図書館が訪問したことは評価できる。ステーションの利用状況を検討し、図書館が近くにない地域・学校など、移動図書館車の有効活用の検討を望む。

(6)

・休校期間中、休館中にも団体貸し出しの本を届けていただいたことは大変ありがたい。

・今後も学校の司書教諭や図書館指導員に、読み聞かせ等のスキルや選書の方法を伝えたり、団体貸し出しの利用を呼びかけたりして、連携をさらに強めてほしい。

・学校・学校図書館との連携して子どもたちの読書活動の環境を整えることはとても重要。

・コロナ禍でも、団体貸出を継続した事や、市内小学校・特別支援学校すべてに30冊を届けたことは評価できる。

(7)

・「千葉市民の知」のデータを今後、学校の授業で活用できるようにしていただけるとありがたい。

・収集した「千葉市民の知」はデータか冊子として提供するのか、どちらにしても授業に有効活用されることを期待する。

(8)ア

・子どもの読書活動の推進・啓発に向け、地域のボランティアや文庫など市民の協力や保健福祉センターや幼保支援課など子どもに関係する施設と連携をして様々な施策が行われていることを評価したい。

・子どもに直接本を手渡す場や人の存在が大切なので、ボランティアの人材育成やスキルアップ、千葉市文庫等連絡協議会との連携を続けていただきたい。

(8)イ

・4か月検診時のおすすめの絵本紹介を評価する。保護者への早期の啓発は大変有効である。

(その他)

・市図書館HPの「子どものページ」には分館を含めて児童書展示のお知らせが多く、児童書の展示が活発なことに加え、展示図書リストを記録に残し公開している点も後日の図書利用に活用ができ、評価したい。

評価: **A**

【基本目標2】新たな時代に適応する運営の実現

【施策1】誰もが利用しやすいサービス環境の実現

(1)利便性の高い場所へのサービスポイントの設置

		取組結果
29	ア 土気図書室を改修し、子どもたちが読書に親しむ場や、予約本の受取返却などのサービスを提供します。	・子どもたちが読書に親しむ場として、児童スペースを拡大するなどの改修を行い、令和3年3月にリニューアルオープンした。(中央)
30	イ 図書館施設が近くにない地域などに対し、移動図書館車による図書館サービスを提供します。	・市内26カ所のステーションへ、月2回の指定日に巡回し、貸出等のサービスを提供した。(中央) 参考資料 統計「千葉市の図書館2021」 (P.52)移動図書館利用統計

(2)開館日・開館時間の最適化

31	ア 利用者の利便性を高めるため、地域の実情に即した開館日・開館時間の最適化について、引き続き検討します。	・区役所との併設施設であるため、引き続き、区役所が開庁している月曜日も開館することで、利用者の利便性の向上を図った。(みずほハスの花)
----	--	---

(3)インクルーシブ(包括的)な利用環境の整備

32	ア 「図書館利用に何らかの障害がある人すべて」に対して、資料を利用する上での障害を、対応機器の整備や人的配慮などにより取り除き、情報提供に努めます。	・大活字本やDAISY図書(デジタル録音図書)など高齢者や視覚に障害がある利用者に配慮した資料を収集した。(全館) ・視覚障害等により活字での読書が困難な利用者に対し録音図書等の郵送貸出を行った。(中央) ・対面音訳サービスについては、新型コロナウイルス感染症対策の観点からサービスの提供を中止した。(中央) ・来館することが困難な身体に障害がある利用者に対し自宅配本サービス(毎月2回)を実施した。(地区館) ・自宅配本サービス訪問時に、新刊新着案内を配布し、予約サービスの向上を図った。(花見川) ・拡大読書器を設置した。(若葉) 参考資料 統計「千葉市の図書館2021」 (P.50)障害者サービス
----	--	---

評価指標	達成目標	令和2年度 実績	令和元年度	平成30年度
図書館利用に障害のある方への 情報提供	対前年度比増	対面音訳件数 0 件	対面音訳件数 14 件	対面音訳件数 3 件
		貸出冊数	貸出冊数	貸出冊数
		7,154 点	7,414 点	8,836 点

33	イ 日本語以外の言語を母語とする市民のニーズを把握し、中央図書館を中心に、外国語資料の収集・提供や地域の中で生活する上で必要な情報の提供に努めます。	・外国語書誌数:R2:19,094件 ← R1:18,878件(中央) ・展示コーナーで外国語資料に係る展示を2回実施した。(英語新着図書の紹介など)(中央)
----	--	--

(4)自動貸出機などによる貸出サービスのセルフ化		取組結果
34	ア 利用者の利便性を高めるため、ICTを活用したサービスを提供します。(ICタグの導入等)	・ICタグを活用した自動貸出機や予約棚(セルフの予約本受取)のサービスを提供し、利用者の利便性の向上に努めた。 (みずほハスの花)

(5)情報環境の整備

35	ア 利用者の利便性を高めるため、ICTを活用したサービスを提供します。(公衆無線LAN(Wi-Fi)の拡充に向けた検討)	・全ての図書館(みやこ図書館を除く14施設)にWi-Fi環境を整備した。(中央) ※みやこ図書館は、既に整備済(平成31年3月) ※令和2年11月11日 全15施設にて運用開始 Wi-Fi 接続数(アクセス数) 令和2年11月11日～3月31日 1,826件
----	--	---

(6)電子書籍の調査研究

36	ア 図書・雑誌・新聞に代表される印刷媒体の資料だけでなく、インターネット等による電子媒体を組み合わせた情報提供ができるよう研究・検討します。また、動画による情報発信について検討します。	・レファレンスにおいて、インターネット上で収集可能な情報についても、必要に応じて提供した。 ・電子書籍について他政令市及び県内他市の状況を調査し、予算化を行った。(中央) ・有料データベースについては、ランニングコストが発生することなどから調整が必要であるが、引き続き予算要望していきたい。(中央) ・千葉市YouTubeチャンネル「chibacityPR」を活用し、絵本の読み聞かせを配信した。(美浜) (令和2年10月24日～11月30日 配信1:視聴484回、 配信2:視聴132回)
----	--	--

(7)利便性の高い利用認証システムの調査研究

37	ア 市民が「知の拠点」で提供するサービスを利用するに当たって必要となる利用認証に関しては、認証技術の高度化を踏まえ、利便性の向上に資する方法などについて調査研究を進めます。	利用認証システムについて調査研究を行い、図書館システムの更新時期に導入の可否について検討する。(中央)
----	--	---

(8)その他の取組み

38	ア 利用者にとって、見やすく、使いやすい図書館環境を整えるとともに、様々な危機事案に適切に対応できる体制を整えます。	【提示】 ・施設内への貼り紙掲示(「雨天時の返却カウンター水濡れ注意」等)をした。 ・利用マナー向上を促すサイン(駐車場使用に関する譲り合い、飲食・携帯通話の禁止など)を刷新して掲示した。 ・館内見回りの強化と、利用者への声掛けをした。 ・掲示物を見やすい物に作りなおした。 【書架】 ・書架の面展示を継続実施した。(書架ごとのおすすめ本等)本を探しやすいよう、以下の取組を実施した ・書架の本を適正な量に削減した。 ・極度に傷んだ資料の除籍や、利用の少ない資料を閉架に移動するなど、書架に適度な空間が生まれるよう整理した。 ・参考資料室にあった参考図書を文学全集の近くに移動するなど、配架場所の見直しを行った。 ・書棚の最上段及び最下段について、利用者より使いづらいつの意見を受け、出来るだけ取りやすく見やすい棚へ資料を移動した。今後も地震等による落下の危険性のある最上段の書棚への配架を極力避ける。(花見川) 【新型コロナウイルス感染症対策】 ・返却図書をウイルス不活性化目安の72時間経過まで保管のち提供とした。 ・カウンター待機列の立ち位置の設置、閲覧席、読書室の席の間引き等を実施した。 ・消毒液の設置、館内の消毒、閲覧席の間仕切りの設置、館内放送による注意喚起等を実施した。 【その他の危機事案対策】 ・例年、火災事故発生を想定し、消火班・誘導班等各班に分かれ、実際に消火ホース(水なし)などを使用した防災訓練を行っているが、新型コロナウイルス感染症の影響により実施出来なかった。(中央) ・法定義務の点検等を実施した。(中央)
39	イ 市民の図書館利用を促進するため、積極的な広報活動を行います。	・図書館ホームページに企画展示や市民講座等のイベント情報などを掲載し、資料の紹介や、講座の募集・PR等、積極的な情報発信を図った。同時に館内ポスターを掲示したり、ポスターやチラシを学校や保育所などの関連施設に配布・設置を依頼してPRを行った。 ・新型コロナウイルス感染症対策のため例年実施している、近隣商業施設へのポスター、チラシの配布等を実施しなかった。(若葉) ・市政だよりや図書館だより、図書館ホームページやFacebookページ、千葉市ホームページ等を活用し、図書館事業に関する情報を発信した。 千葉市図書館ホームページアクセス件数 令和2年度 3,597,182件 参考資料 統計「千葉市の図書館2021」 (P.53)千葉市図書館ホームページアクセス件数の推移
40	ウ よりよい図書館運営を図るため、多くの市民の御意見を伺う機会を設けます。	・図書館ホームページ「お問い合わせメールフォーム」から寄せられた意見や、館内に常設している「意見箱」に寄せられた意見等について、図書館運営の改善に向けた基礎資料とするとともに、回答を希望する利用者への回答を行った。 ・令和2年2月24日～3月17日に利用者に対し、市図書館(分館含む)及びWEBで千葉市図書館利用アンケート調査を実施した。

評価指標	達成目標	令和 2 年度 実績	令和元年度	平成 30 年度
千葉市図書館利用アンケート調査(利用者満足調査)における満足度	現状維持	満足	満足	満足
		54.5%	53.8%	53.3%
		やや満足	やや満足	やや満足
		38.7%	41.1%	41.3%
		計 93.2%	計 94.9%	計 94.6%

内部評価

- (1)ア
・土気図書室の改修では、読書に親しむ場として、こどもスペースの拡大や、傷んだ資料を除籍し、書架に適度な空間が生まれるよう整理を行い、利用者の利便性向上を図った。
- (1)イ
・引き続き、移動図書館の巡回サービスを実施し、図書館施設が近くにない地域などの市民が図書館に来館しなくても本市図書館の図書資料に触れる機会を提供していく。
- (3)ア、イ
・インクルーシブ(包括的)な利用環境の整備について、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、対面音訳サービスの提供を中止したが、対応機器(DAISY図書、拡大読書器など)の整備や、自宅配本サービス、外国語資料の収集・提供などの取組みを実施し、障害のある市民や外国籍の市民が利用しやすい環境の充実を図った。国において「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」(読書バリアフリー法)が施行されたことに伴い、より一層サービスの充実を図っていく。
- (4)
・みずほハスの花図書館に導入している自動貸出機・予約棚について、市民からプライバシー保護や利便性向上の観点で高い好評を得ている。引き続き、ICTを活用したサービスの提供を継続する。
- (5)
・市民がインターネットを介してデジタル情報にアクセスできるよう、全ての図書館にWi-Fi環境を整備した。
- (6)
・情報のデジタル化などの社会変化を踏まえ、紙の図書資料の貸出や返却に加えて、図書館に来館せずに本の貸出や返却が可能となる電子書籍の導入に向けて進めていく。また、YouTubeで絵本の読み聞かせを配信したように、図書館に来館しなくても図書館サービスを提供することができる、非来館型のサービス提供について模索していく必要がある。
- (8)ア
・新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、利用マナー向上を促すための提示や、書架を整理するなど様々な工夫や改善を行い、利用者にとって利用しやすいよう、図書館の環境を整えた。
・防災訓練は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施出来なかったが、職員へ防災訓練に係る資料(消火器の使い方や避難経路図など)配布を行い、防災体制の確認を行った。
- (8)イ
・市民の図書館利用を促進するため、「市政だより」や「図書館だより」などの紙ベースで情報発信したほか、インターネットを通じて積極的な広報活動を行った。
- (8)ウ
・利用アンケート調査における、図書館サービスの満足度は93.2%と例年同様に高水準である。

評価: **A**

外部評価

(1)ア

・子供の読書離れが言われて久しい。子供スペースの拡大など、子供が図書館に通いたくなる工夫がされていることを評価する。
・土気図書室の改修により、明るく本が見やすくなったが、子どものスペースを作るだけでなく、児童担当の職員の配置や本の紹介、おはなし会などサービス全体を見直していただきたい。

(1)イ

・移動図書館は、施設が近くにない地域にとっても、コロナ下で外出を控える利用者にとっても利用してほしいサービスである。もっとPRをしてもらいたい。

(2)

・開館日・開館時間は地域の実情を分析したうえで検討してほしい。

(3)ア

・インクルーシブな利用環境の整備を評価する。すべての市民にとって、居場所となり「知」のよりどころとなる図書館づくりをさらに進めていただきたい。
・コロナ禍で有料宅配が増加している。障害や日本語以外の言語を母語とするなど図書館利用が難しい事例は多岐にわたる。細やかな対応を評価し今後もニーズの把握に努めていただきたい。
・障害者への理解と共存を深めるため、小学生の点字体験などが実施されなかったことは残念であるが、稲毛図書館で手話による読み聞かせなどの試みを評価したい。
・障害者サービスの研修会、音訳研修会の実地がなかった。

(3)イ

・日本語以外の言語を母語とする市民のニーズは地域によって差がある、中央館だけでなくその地域のニーズに合わせた資料の収集が地区図書館でも必要である。さらにその提供方法を工夫して積極的に活用できるようにしていただきたい。

(4)

・ICTの利便性について、導入については費用対効果の検証を行ってもらいたい。貸し出しのセルフ化のメリット・デメリットの検証も必要。
・プライバシー保護の点は「図書館の自由に関する宣言」などを掲げ、図書館は利用者の秘密は守ることを周知するなど信頼関係が重要である。

(5)

・全館のWi-Fi環境整備は、大きな画期であり、図書館での調べ学習を深めるものとして活用してほしい。
・すべての図書館公民館にWi-Fiが整備されたことは評価する。タブレットの貸し出しや利用者講習などがあれば、利便性が高まるの

(6)

・電子書籍の予算化が実現したことは、デジタルトランスフォーメーション(DX)が進展する中で必須のことであり、紙の図書との適切なすみ分けに留意しつつ、魅力的な資料整備を進めてほしい。電子書籍と導入が前後してしまったが、市民生活に活用できるオンライン・データベースも導入に向けて引き続き検討・調整に期待したい。
・電子書籍の予算化は評価する。電子書籍は来館が困難な人や新たな図書館利用者が期待できるので、そのコンテンツの魅力を十分に精査していただきたい。
・有料データベースは図書館サービスには不可欠である。中央図書館の機能強化のためにもぜひ財源を確保して、導入を目指し、利用者にもその有用性を広く周知するようにしていただきたい。
・美浜図書館での読み聞かせの配信はコロナ禍でも、子ども達に本を届けようという強い気持ちや、著者とのつながりを大切にしてきたことで可能になったと評価できる。

(7)ア

・新型コロナウイルス感染症対策については、安全を確保する中でできるだけのサービスをしようという図書館を挙げての懸命な対応が伝わった。何をどこまですべきだったかは収束後でないと評価が難しいが、図書館でのクラスターを発生させなかったことは特記に値する。
・コロナ禍で様々な制約のある中で、利用者の満足度が例年どおり高水準であることは大変評価できる。利用者の図書館の運営に対する評価が高く、また、感染対策についても市民から評価されているのだと思われる。
・新型コロナウイルス対応では各館とも、カウンターの飛沫対策や、返却本の保管場所の確保、消毒や利用者の動線の確保など対応は評価します。休館中にも団体貸出を継続したことも評価したい。
・返却本のウイルス不活性化のための72時間経過までの保管について、予約本の受け取りに日数がかかるようになっており、改めて効果の検証を行い迅速な資料提供に努めてほしい。
・休館期間中の予約を継続した事で、再開後に貸出が集中した事や、開館後、入館の際に個人情報(入館票)を記載することの是非など、今後再び感染が拡大し、同様の事態に備えて検証していただきたい。
・書架の面展示は本が探しやすい。本の紹介もあると手に取りやすい。開架書架でいつもと違う本と出合うこともあるので、利用が少ないからと閉架に移動した本も紹介するなど工夫していただきたい。

(7)イ

・図書館ホームページはイベントや講座のお知らせが探しにくく魅力がない、ホームページアクセス数は年々増加しているので広報として改善が望まれる。Facebookも登録者が少なく、Facebook利用でなくても閲覧が可能なように設定を変更したり、更新の頻度を上げるなどの工夫が必要。

(その他)

・足を運びたい図書館であると同時に、足を運ばなくても移動図書館車、インターネット等により、サービスの提供が受けられる機能を備えた図書館となるよう今後もバランスよく整備していただきたい。

評価: **A**

【基本目標2】新たな時代に適応する運営の実現

【施策2】新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築

(1) 図書館職員の知識経験を活かす効果的な配置と人材の育成

		取組結果
41	ア 図書館サービスをはじめ、行政分野や地域の課題にも精通し、高度で的確なサービスを提供できる専門職員の確保と育成に努めます。	・例年、新任図書館職員に対し、業務の基礎学習による知識習得を図るため、初任者研修を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により研修会が中止となったため、研修会の資料を配布した。(中央) ・例年、図書館職員(会計年度任用職員を含む)を対象に、図書修理技術の習得を図るため、全体研修会を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により研修会が中止となった。(中央) ・図書館業務に関する知識習得を図るため、外部の研修に参加した。(県立中央図書館主催の地域行政資料研修会など研修回数23件、受講者数39人) 参考資料 統計「千葉市の図書館2021」 (P.72)職員研修の実施

評価指標	達成目標	令和2年度 実績	令和元年度	平成30年度
職員を対象とした図書館業務に関する研修の実施・参加回数及び受講者数	現状維持	26回 延べ146人	65回 延べ414人	85回 延べ397人

(2) 中央図書館の機能強化

42	ア 司書等の専門分野を特定するとともに、その分野における能力開発を進め、市民等からの高度な情報ニーズに的確・迅速に対応できる人材、知的交流をファシリテートできる人材の養成について検討します。	・「知の拠点」としての市民サービスの向上を図るため、外部講師(日本図書館協会の認定司書)による研修を実施した。 参考資料 統計「千葉市の図書館2021」 (P.5)職員数(有司書資格者数等) (P.72)職員研修の実施〔千葉市図書館職員研修会〕
----	---	--

評価指標	達成目標	令和2年度 実績	令和元年度	平成30年度
司書資格を有する職員の割合	対前年度比増	54.2%	51.9%	55.0%
		正規職員	正規職員	正規職員
		21.6%	20.8%	27.4%
		会計年度任用職員	嘱託職員	嘱託職員
		98.7%	94.8%	94.6%

(3) 地区図書館・地区図書館分館の再編

43	ア 地区図書館・地区図書館分館の再編について検討します。	・地区図書館・地区図書館分館の再編については、施設の再整備に併せて検討をする。(中央)
----	------------------------------	---

(4)図書資料等の保存・物流機能の一元化		取組結果
44	ア 図書資料の物流機能の拡大や施設価値の最大化のため、図書資料の保管機能と物流機能を一体的に担う新たな拠点を整備することについて、図書館利用者や地元住民などの意見を聴取しながら、具現化に向けて検討します。	・図書資料等の保存・物流機能の一元化については、図書館利用者や地元住民などの意見を聴取しながら、具現化に向けて検討する。(中央)

(5)図書館施設の老朽化への対応

45	ア 「千葉市公共施設等総合管理計画」が示す基本方針及び資産の総合評価の結果の見直し方針などを踏まえ、利用ニーズの動向や地域に必要な「知の拠点」としての機能などを整理した上で、学校等との複合化や施設規模のコンパクト化、拠点性のある商業施設への移転の可能性などについて検討を行い、適切に対応します。	・緑図書館土気図書室を改修し、令和3年3月にリニューアルオープンした。(【再掲】基本目標2.1.(1)ア)(中央) ・花見川図書館の大規模改修について、周辺自治会に説明した。(公民館との複合化)(中央) ・千城台地区学校跡施設の活用素案を「千城台地区学校跡施設利活用検討委員会」に提示をし、回答書及び要望書が提示された。 (若葉図書館の整備)
----	---	--

(6)民間機能の活用

46	ア サービスポイントとして再整備した施設の運営については、庁内関係部署や関係機関との協議を行った上で、民間機能を活用した運営について慎重に検討します。	・民間機能の活用を進めるにあたっては、関係部局や関係機関と協議を行った上で、慎重に検討していく。(中央)
----	---	--

(7)運営資金を確保する新たな手法の検討

47	ア 運営資金の確保に努めるため、引き続き予算対応を行うとともに、寄付金受入れや、募金箱の設置及び雑誌カバーを活用した新たな広告事業等による広告料、地元企業などからの支援やクラウドファンディングなど、新たな手法について検討します。	・図書資料費(R3予算)の確保については、厳しい財政状況下において可能な限りの予算確保に努めた。(中央) (要望額:88,621千円→内示額:88,621千円) ・図書資料の整備に充てるため寄附金の受入や募金箱を設置し、資料費の確保に努めた。(中央) (寄附金収入(R2決算見込):5,475,668円(前年比4,980,651円増)) ・広告料収入を確保するため、民間事業者による、ホームページバナー広告のほか、雑誌カバー等への広告を実施した。(中央) (広告料及び目的外使用料(R2決算見込):945千円(前年比117千円減))
----	--	---

(8)関係機関との連携		取組結果
48	ア 市民の持つ様々な技術、知識、経験をボランティアとして、図書館サービスに資することで、豊かな経験ができる活動の場を増やします。	・移動図書館のステーションマスター(有償ボランティア)による図書館サービスの提供を実施した。(音訳協力者(有償ボランティア)については、新型コロナウイルス感染症対策の観点から対面音訳サービスが実施できなかった。)
49	イ 図書館相互間、地域の生涯学習施設、公的機関、各種団体などとの協力を推進します。	・市内未所蔵資料について、県内他市図書館から相互貸借により取り寄せ、利用者に提供した。 ・利用者の希望資料が、県内他市図書館に所蔵がない場合は、国立国会図書館や県外図書館に所蔵確認し、資料を提供できるよう努めた。(中央) ・大学図書館より論文資料を取得し、利用者に提供した。(あすみが丘) ・千葉市図書館情報ネットワーク協議会事業等により、千葉市内の図書館施設との連携を図った。(中央) ・千葉市図書館情報ネットワーク協議会ホームページに加盟館のイベント情報などを掲載するなど、加盟館の情報発信に努めた。(中央) ・千葉市美術館の展示に合わせてアンデルセン賞関連の絵本等を提供し、美術館内の図書室で展示を行った。(中央)

評価指標	達成目標	令和2年度 実績	令和元年度	平成30年度
図書館間相互貸借資料数	対前年度比増	借受 6,536 冊 貸出 6,888 冊	借受 7,476 冊 貸出 9,378 冊	借受 8,414 冊 貸出 9,262 冊

(9)施設名称の検討

50	ア 市民と「知の拠点」との距離感を縮め、また、「知」の創出への参加意識を醸成するため、すべての市民の「知の拠点」に相応しい名称や愛称などについて検討します。	・施設名称の検討については、施設の再整備に併せて、段階的に実施していく。(中央)
----	--	--

(10)その他の取組み

51	ア 図書館運営に多様な市民の意見を反映させるため、図書館協議会に、公募による委員を引き続き登用します。	・委員の改選を行い、2人の公募委員を含めた10人の委員を委嘱した。(中央)
----	---	---------------------------------------

内部評価

- (1)
・よりよい図書館サービスを提供するため、図書館職員の専門性を高める研修は必須である。開催方法等工夫して毎年度実施できるようにしたい。
- (2)
・知の拠点にふさわしい人材を確保するため、計画的に職員の育成を進めることとし、この取組みの一環として、外部講師(日本図書館協会の認定司書)による研修会を実施した。
- (5)
・施設の再整備等は、「千葉市公共施設等総合管理計画」が示す基本方針及び資産の総合評価の結果の見直し方針などを踏まえ、関係部局や関係機関との協議や、図書館利用者や地元住民などの意見を聴取しながら、段階的に進めていく。
- (7)
・図書資料費については、厳しい財政状況の中、可能な限りの予算確保及び、寄付金受入などの外部資金を確保し、予算獲得のための取組みを行った。
- (8)ア
・音訳協力者やステーションマスター(有償ボランティア)の協力による図書館サービスの提供など、図書館サービスがより豊かになるさまざまな図書館ボランティア活動の提示について引き続き検討する。
- (8)イ
・本市図書館が所蔵していない資料は、図書館間の相互貸借等により、市民が必要とする資料を提供できるように努めた。引き続き、各種機関の特徴や所蔵情報を把握して相互に活用し合うなど連携を図る。
・千葉市図書館情報ネットワーク協議会により、地域の図書館が館種を超えて連携・協力をし、図書館サービスの向上を図った。

評価: **B**

外部評価

- (1)
・職員研修はコロナ禍で縮小を余儀なくされたが、今後の再構築を望む。
・新型コロナウイルスのため多くの研修がオンラインに移行してきた。人数制限をするなど、工夫して研修を行っていただきたい。
- (2)
・時代や市民のニーズに合わせて、知の拠点にふさわしい人材育成に努めている点を評価する。
・司書有資格者は増えていないが正規職員数が102名と減ったため割合が増えたに過ぎない。会計年度任用職員に頼る運営ではなく、まずは、千葉市を熟知し図書館業務に精通したスペシャリストとなる正規職員の確保が必要である。
- (3)
・地区図書館・地区図書館分館の再編やサービスポイントの整備は大きな課題だが、市民の身近な場所にこれからの時代に必要な図書館機能が得られるよう、図書館像を描いてほしい。
・地区図書館は地域にとって大切な施設である。その再編に当たっては住民や利用者の意向を十分に反映して検討を行うとともに、計画段階から利用者の声を十分に聴く配慮が必要である。
- (4)
・計画に当たっては早期の情報公開と利用者の意見を聞くなどの機会をきちんと設けていただきたい。
- (5)
・学校や公民館、商業施設などとの複合化により、より利用しやすくなる場合もあると思われる。地域のニーズに合わせた複合化等、施設の整備に期待する。
・「千葉市公共施設等総合管理計画」を踏まえ、老朽化した施設の見直しについて、花見川図書館の複合化だけでなく、若葉図書館の移転についても図書館利用者や図書館協議会にも全く情報が公開されていない。地域の自治会だけでなく計画段階から情報を公開して意見を聴取し、設置場所だけでなく図書館機能や役割についても十分に話し合う機会を作っていただきたい。
- (6)
・「民間機能を活用した運営」とは「民間委託の導入」であり、図書館にはなじまない。庁内関係部署や関係機関との協議だけでなく、地元住民や利用者の意見を尊重し、図書館協議会で委員からの意見を聞き、市民の声を十分に反映し、慎重に判断していただきたい。

(7)

- ・資料費の前年度同額の確保(令和3年度予算)、寄付金収入・広告料収入は、関係者の努力を多としたい。
- ・寄付の受け入れや広告収入など、工夫して予算の確保に努めている点を評価する。
- ・図書館資料費が年々削減されている。政令指定都市との比較では18位となっている。今後、電子書籍の導入で紙の資料費が圧迫されないよう予算確保に一層の努力を要する。
- ・寄付や募金が資料の充実の一端を担っているが、資料費の確保は図書館の責務だと考える。

(8)ア

- ・音訳協力者やステーションマスターだけでなく、地域の図書館にかかわることで図書館に親しみをもち利用促進になるよう、図書館ボランティアとの協働の可能性を提示していただきたい。

(8)イ

- ・図書館相互貸借資料数統計は、市外からの借受図書が6,536冊(前年度の約87%)であり、市民の図書館資料へのニーズはコロナ禍でも大きく落ちてはいないことがうかがえる。
- ・利用者の求める情報の提供のため、よりよい市民サービスのため、関係機関との連携に努めている点を評価する。
- ・千葉市には県立図書館をはじめ大学図書館など多くの図書館があるので、千葉市図書館情報ネットワーク協議会とも連携し、相互貸借などにより市民サービスの向上を図っていただきたい。

(9)

- ・千葉市は、1992(平成4)年4月1日に全国で12番目の政令指定都市となりました。政令指定都市へ移行すると同時に6つの区(中央区・花見川区・稲毛区・若葉区・緑区・美浜区)も誕生しました。『政令指定都市へのあゆみ』によると、平成3年9月7日に学識経験者や市民の代表等44名で構成された「千葉市区名選定委員会」が設置されました。10月5日から18日まで名前の募集が行われ、22,910通もの応募がありました。第2回選定委員会で、各区それぞれ5つずつ名前の候補が選定され、さらに、10月31日に第3回目の選定委員会が開催され、各区の名前が決定。選ばれた区名はいずれも公募結果第一位にあったもので、市民の意向が反映される形となりました。愛着のある図書館名称を変更する必要があるのか、よく検討していただきたい。

(10)

- ・市民の意見を反映させる工夫をしている点を評価する。
- ・図書館協議会が設置され公募による委員の登用することは評価する。

評価: **B**